

平成26年度第1回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成26年5月8日(木)午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12人 傍聴者：2人
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、サービス担当係長、資料担当係長、調査担当係長、
仲町図書館長 計8人

4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 委員任命式(委員任命書の交付)

6 職員の人事異動について(資料No.2)

図書館は14名の異動があった。このうち新人職員は2名の配属があった。

7 議事

【参考資料】の確認

- ・小平市図書館協議会委員名簿(資料No.1)

吉富委員の後任として吉成委員が任命された。

(1) 報告事項

- ① 平成26年度図書館協議会開催日程について(資料No.3)
今年度も6回の開催を予定している。

- ② 平成26年度小平市図書館事業計画について(資料No.4)

平成25年度第6回の図書館協議会で指摘をいただいた部分として、図書館見学の対象に「保育園児」を追記し、図書館開館40周年に向けての準備の記述の中で、平成27年を平成27年度に修正し、平成26年度図書館事業計画を策定した。この事業計画に基づいて事業に取り組んでいく。

- ③ 図書館運営状況について

- ・「図書館事業等の報告と今後の予定について」(資料No.5)

(これまでの報告)

3月19日 障がい者サービス交流会 中央図書館

3月27日 子ども科学講演会「作ろう!のぞくと広がる、ちいさな世界ばこ」

講師：あべななえ氏 (参加27人)

3月29日 小平図書館友の会 古本市 会場：中央公民館(～30日)

4月1日 「こだいら子ども読書月間」 全館(～5月6日)

おはなし会で読まれた絵本の展示 全館

「布の絵本・遊具で遊びましょう」協力：布のゆうぐ「ひまわり」

中央図書館

4月15日 平成26年度小平市子ども文庫連絡協議会定期総会・役員会 中央図書館

4月26日 「こだいら子ども読書月間」講演会「子どもたちに本の楽しみを」

講師：松岡享子氏（東京子ども図書館理事長） 中央図書館

（今後の予定）

5月15日 音訳者講習会（中級）第1回 中央図書館 ※全10回

5月21日 絵本の読み聞かせ実践講座 第1回 中央図書館 ※全3回

6月 7日 図書館友の会講演会「古本蒐集の楽しみ、そして図書館」

講師：岡崎武志氏（評論家） 中央図書館

6月10日 蔵書点検による臨時休館

10日～13日：花小金井・小川西町・喜平

16日～20日：中央・各分室

24日～27日：上宿・津田・大沼

・平成26年度月別貸出状況について（資料No.6-1）

4月分のみだが、今年度から統計の取り方を変更した。これまでウェブからの貸出延長については、貸出した館のデータとして加算していたが、システム変更により貸出延長を単独で集計する仕様となったためウェブ館として表示する。全館合計で126,004点となっているが、前年同期の129,624点に対し、3,620点の減となっている。

・月別館別登録者数及び貸出者数について（資料No.6-2）

月別館別登録者数は47名ほど増加し、月別館別の貸出者数は、中央、花小金井、喜平図書館の順に貸出者数が多い。

・広域利用別貸出状況について（資料No.7）

貸出者数、貸出資料数ともに東村山市民の利用が多くなっている。なお、今回から国分寺市についても表に加えた。

その他に、4月29日に図書館ホームページを一時停止した。蔵書検索サービス、利用者メニューを作成するためのソフトウェア（アパッチストラッツ）のセキュリティー上の脆弱性があると判明し、個人情報の搾取や、ウェブの改ざんの恐れがあるため、同じシステムを使用している狛江市、羽村市も一時停止したという状況も踏まえて決定した。当初の予定では5月中旬まで復旧にかかると聞いていたが、5月1日に復旧することができた。

④ 平成25年度図書館事業報告について（資料No.8）

登録状況では、市内登録者数、市外登録者ともに伸びている。市内登録者数は前年比で

4, 577人増加しているが、貸出資料数は、27, 299冊減少している。

図書購入冊数、寄贈冊数も例年と大きく変わらないが、所蔵資料数では、119万9千冊と昨年度から約1万5千冊増加している。

貸出資料数を館別、月別に分析すると夏の時期の貸出しが伸びていることがわかる。

リクエスト数については、平成24年1月から受付件数を5冊から10冊に拡大したことから、合計で313, 617件と昨年度より、10, 471件増加している。

相互貸借は、例年と同様の傾向であり、貸出約6千冊、借用約7千冊となっている。昨年度は11月に国分寺市との相互利用を開始した。多摩六都・三多摩・23区への貸し出し、借用及び都立図書館からの借用についても、大きな変動はない。

レファレンスサービスは、前年度比で約1万3千件増えている。所蔵調査が大部分の約97%を占めている。

広域利用統計は、4市の中では東村山市の方の割合が多い。

学校への団体貸出は、いずれも増加している。なお、学校への貸出については、校長会、司書教諭等連絡協議会、図書館と学校との連絡会、教育員会だよりなど、機会をとらえてPRしている。

その他、図書館協議会の活動報告、図書館事業実績を掲載している。

国分寺市との相互利用統計の傾向としては、数の上では、国分寺の図書館を小平市民が利用する機会が多い。今年度からは通常の統計の中で報告していく。

⑤ 小平市立図書館の臨時休館について（資料No.9）

例年どおり6月に実施する。3つのグループに分けて実施するため、貸し出し等は市内のいずれかの図書館でできるが、リクエストの移送は点検後となる。全館のブックポストが利用できるため、貸出期限の延長は行わない。

⑥ 学校図書館協力員の配置について

今年度の学校図書館協力員の配置については、平成25年度末に退職者があり欠員が生じたため、平成26年度から活動できる学校図書館協力員を募集し第十小学校に配置した。

⑦ 平成26年度司書講習への職員派遣について

司書講習については、今年も7月下旬から9月中旬にかけ、亜細亜大学へ3名の派遣を予定している。

⑧ 平成26年度ブックリサイクル事業について（資料No.10）

10月と2月は、一般書・児童書を、1月は雑誌等を予定している。雑誌等の対象資料は、2年保存の雑誌、1年保存の週刊誌、5年保存の雑誌となっている。周知方法は、ポスター、チラシ、図書館ホームページで行う予定である。

⑨ 平成26年度当初予算について（資料No.11）

平成26年度の図書館における人件費を除いた当初予算（歳出）を説明する。図書館事業は24の事業があり、今年度と昨年度を比較すると、昨年度に比べ約4億3千8百万円の増となっている。主な要因は仲町図書館・仲町公民館整備事業で、今年度中にオープン予定のための経費である。増額された内容は、改築工事関係、図書等資料関係、図書館システム等情報機器関係、広報関係、開館式典等関係、備品関係、その他運営管理関係に分けられる。仲町図書館関係以外では上宿図書館において太陽光発電設備の設計を実施し、来年度着工を予定している。

⑩ 平成26年度第1号補正について

6月の市議会定例会の議案として提出するため、現在準備を進めている。詳細の説明については、次回の図書館協議会の中で行う。内容は、仲町公民館・図書館の建築費関係で、国から、技能労働者の不足に伴う労働市場の実勢価格の適正迅速化、工程福利費相当額を反映させるための労務負担を改定し、また、材料費にも反映するという一方で、インフレスライド条項を適用することから仲町公民館・図書館の建築費が増加する。全市的な対応の中の一環として補正予算を組むことになった。

⑪ 小平市立図書館条例施行規則の一部改正について（資料No.12）

前回、概要について説明したが、教育委員会で決定され平成26年4月1日に施行となったので、改めて説明する。著作権法の改正により、視覚障がい者のための著作物の提供対象範囲が視覚障がい者の他、視覚による表現の認識に障害があるものに範囲が拡大されたのを受け、録音図書貸出対象者の拡大を図った。さらに、郵送等貸出における対象者、貸出冊数を拡大するとともに図書館資料の予約について規定を設けた。

⑫ 「第3次小平市子ども読書活動推進計画」に関するアンケートの集計結果（速報）について（資料No.13）

昨年度実施したアンケート調査を集計し、速報版としてまとめた。

調査目的は、平成27年度からの「第3次小平市子ども読書活動推進計画」を策定するにあたり、急速に変化する世の中における現時点での子どもの読書状況を把握することであり、計画策定のための基礎資料という位置づけで実施した。

調査期間は、平成26年2月1日から28日までの1カ月間。調査対象は、幼稚園、保育園の保護者、小学校4年生、中学校2年生、高校2年生とし、市内の幼稚園、保育園、小・中学校、高校に協力を依頼した。

配布、回収状況は、未就学児は、配布515、回収283で回収率は54パーセント。就学児は、配布1190、回収1059で回収率は88パーセントとなった。

未就学時についてのアンケートは、保護者を対象としているが、何らかの形で本に接している子どもが多いことや、図書館のおすすめ本リストが役に立っていること、本に接していない未就学時は、本以外の遊びに興味があることや、保護者に絵本の読み聞かせの時間がないという回答が多かった。小学生以上についても、多くが本を読んでいるが、高校生になると急激に「時間がない」を理由として不読率が上がっている。ティーンズコーナーについては、存在を知らない子

どもが大半であり、知っている子どもでも、読書のためというより勉強できる場所として求めている傾向にある。ここから見えてくる課題として、読み聞かせを卒業した年齢の子どもが自らの意思で本を選び読むようにすること、ティーンズコーナーの充実と広報の強化、行事内容の工夫などが挙げられる。

⑬ 小平市立図書館収集方針について（資料No.14）

前回の図書館協議会で了承いただいた「小平市立図書館収集方針」はすでにホームページに掲載をした。今後は、選書基準等を検討していく。

⑭ 仲町公民館・仲町図書館の愛称決定及び改築工事の進捗状況について

新しい仲町公民館・仲町図書館の愛称は、応募作品778点の中から選考の結果、「なかまちテラス」に決定した。今後は、この愛称を活用し、PRに努めていきたい。

仲町公民館・仲町図書館の改築工事については5月3日に撮影した写真を配布している。現在、地上3階部分の鉄骨の組み立て作業を行っている。写真は現場北側から南に向かって撮影した。写真左側手前1階部分が調理のできる多目的室、右側手前の部分の1階が陶芸のできる多目的室、2階部分が講座室となる。

今後の予定は、電気、給排水等附帯設備工事に移り、平成26年9月末に完成、建物は10月1日から市の管理に移る予定である。その後、建物の検査、備品等の搬入へと進み、平成26年度中のオープンを目指し、作業を進めている。

< 報告に対する質疑・応答 >

会 長：子ども読書活動推進計画のアンケート結果の最終版はいつ配布する予定か。

事務局：資料として、第3次子ども読書活動推進計画の巻末に掲載するので、アンケートを公表する予定はない。このアンケートは計画を策定するための基礎資料という位置づけで実施している。

委 員：図書館ホームページが一時的に停止したということだが、アパッチストラッツはやや古いフレームワークで、新規のシステムの場合、このフレームワークを使うことは考えにくい状況である。それが原因で止まってしまうということは、仕方がないことで、短期間で復旧し、よかったが停止しないような仕組みがないと困る。次回、図書館システムを選定する場合には、図書館側でよくシステムの内容を理解している方を選定に加えることや、外部専門家に選定に加わってもらう等、構成まで含めて詳しい者が入ったほうがよい。

事務局：現在、小平市で使用しているのはアパッチストラッツ1だが、既に2が出ている。これにも脆弱性があると言われている。全国的に見た場合、NECのシステムは、アパッチストラッツを使っている。はじめは復旧に半月程度かかると言われたが、結果的に短期間で復旧できたのでよかったと考えている。

委 員：偶然にホームページをみたら、脆弱性で停止していることを知った。半月程度と話されたが、ホームページには、「しばらくの間」と表記されていた。ホームページを利用する側からみたら、はっきりいつまで停止すると言った方が親切ではないか。

事務局：半月はあまりにも長く、それを受け入れたのではなく、もう少し短くするよう協議をしていた。はじめから半月と広報することで混乱をきたすと考え、あえて「しばらくの間」と表記した。

委員：アンケート調査の速報版の結果について、一つは、未就学児の回収率が54パーセントとなっているが、回収できたものは本を読む家庭に偏りがあるのではないか。これについて回答できる方が回答しているのではないか。未回答の方の分を解釈しなければならないのではと思う。つまり、積極的に読書をしている方の回答が集まっていると思う。もう一つはティーンズコーナーの扱いだが、もともと、ティーンズコーナーが必要という中で議論が進んでいると思うが、メリット、デメリットもある。例えばティーンズコーナーにあるライトノベルズを大人が読みたいと思っても、そこに中学生や高校生がいればそこに行きにくい。あるいは、ティーンズが調べものをしたい時に大人の場所で調べものをしていたら、ティーンズコーナーに行くように促されるなど、分けることによりある程度の資料が集まるというメリットはあるが、一方で間逆なことが起きると思う。ティーンズコーナーを知らない方が大半であるということは、そのコーナーを作る意味があるのか。知っている方にとってはそのままが良いという方が多い。改善しようとするとなんか悪くなる可能性がある。特にまとめのところで「彼らを引き付け、彼らの仲間を図書館に呼ぶようなことが」とあるが、40代、50代の方たちが考えたティーンズコーナーを好むだろうか。一方で、好きな本のところを見ると小学生以下の子たちは、児童コーナーにあるようなシリーズを嗜好しているという傾向が出ている。これは、児童コーナーがうまくいっている証拠ではないか。中学生、高校生になると、ドラマ、映画化された話題の本ではないかと思う。つまり、一般向けのコーナーの中で、特集などを組めば、図書館に来てくれる要因にはなると思う。さらに、学校図書館に来ない子の理由は、時間がないということだが、部活が忙しいので、物理的に来ることができないのではないか。その場合、図書館が部活などをやめさせて来させるような、何かできるものではない。ある意味「そのままが良い」ということは、うまくいっているのではないか。私としては、ティーンズコーナーは設けなくても良いのではないかと考えている。

委員：ティーンズコーナーがきちんとあるのは中央図書館だけと思う。他は書架が一つか、二つあるだけで、「ティーンズコーナーはどこ」と探す状況だ。だから、このような答えが帰ってくるのは最初から分かっていた。

委員：それなら、ティーンズコーナーということで独立させるよりも、単に、岩波ジュニア新書はこちらですとか、それぞれのレベルで排架する程度にし、特にティーンズという区分けではなく普通の書架にある、という形にしてしまったほうが良いと思う。充実したものができないのなら、ティーンズに分ける必要はないと思う。中央図書館はうまくいっているのか。

委員：中央図書館は勉強等で利用は多いと思う。

事務局：本を探したり、排架したりする場合、錯綜してしまうことはある。

委員：私は、ティーンズコーナーを置くよりも、岩波ジュニア新書のように1か所にかたまっているほうが探しやすいと思う。

- 委員：確かに、検索すると、一般書架にあったり、児童書架にあったり、ティーンズにあたりで探すことが大変なこともあるが、今、読書離れが多い中で、十代の子たちに「ここにはあなたたち向けの本があるよ」というのは何もわからない子どもたちにはとても楽に手に取れるのではないか。
- 委員：本来は選ぶことに意味があると思うが、今は楽をさせてしまっていると思う。
- 委員：「好きな話は何ですか」の問いに、未就学児は昔話などをあげ、「本を買っています」が40パーセントを占めている。これは書店の店先の回転塔に並んでいる一番安い絵本ではないかと思う。就学用のアンケートで「どんな本が好きかとの問い」に、漫画が出てくる。読書に漫画が入っているのかと思った。絶対的な数値ではないが、漫画が読書に含まれると思っている人がいるのだと認識した。
- 委員：統計処理は非常に難しい。大学でも統計処理の授業が1年間あるくらいだ。設問の仕方が問題になる。誘導したければ、いくらでも設問の組み立て方、選択肢の立て方で誘導できてしまう。結果としてはやった感はあるが、実際には何もやっていないこともある。
- 委員：今回のアンケート調査の結果は、傾向は良く読めると思う。
- 委員：児童文学の中で一般の文学との境界線が無くなってきた。昭和50年代からヤングアダルト出版界の様なものがあったが、今は全く流通していない。つまり、意味がなかったのではないかという反省もある。ティーンズコーナーは、どういう作品が選ばれているのか。例えば、「重松清」の作品などは入っているのか。
- 事務局：本の種類ということではなく、その年代に適した本を選書し置いている。
- 委員：特に高学年になると読む子と読まない子に別れてしまっているので、読まない子をどう読ませるかとは別の話として、中学生から高校生には一般書の方がはるかに適応している作品が多いと思う。出版社を見て、この出版社は子どもの図書を中心に揃えているが、高学年向けの図書を出したので、ティーンズとして購入するなど、作品を読んだ上で仕分けすることも大切だと思う。図書館の広報として、以前、市報の中で図書館のコーナーがあった。コラム的なものだが、その時々でふさわしい本を掲載していて毎回楽しみにしていたが、このところ掲載されなくなった。とても残念に思っている。
- 事務局：以前、市報では図書アラカルトというテーマで毎回掲載していたが、市報全体の原稿量が多くなり、なかなか掲載が難しくなっている。再度、掲載できるか調整していきたい。
- 委員：なかなか効果的だったので、検討してほしい。
- 委員：「読み聞かせを卒業した年齢の子どもが」という文章が度々出てくるが、読み聞かせを卒業した年齢というのは、図書館では、いくつぐらいを想定しているか。
- 事務局：はっきり何歳からとは分けていないが、自分で本を選んで読むようになった子どもと考えている。
- 委員：自分の子どもや教育現場で子どもを見ていると、5、6年生でも喜んで聞いている。自分で読む機会があっても人から読んでもらうことの大切さを感じている。本を読む時間が無いとの回答があったが、本が好きな子は寝る暇も惜しんで本を読んでいる。小さい時からの積み重ねにより、読める時間が持てれば、自分の中の欲求があって、本を読むようになると思う。好きな子には、読み聞かせを卒業とは言わないでいつまでも読んであげる。そ

ういう機会を持たせてあげることが重要と思う。小平市でも幼年期から本に親しめる環境を是非、整備してもらいたい。

会 長：「読み聞かせが終わった」の「終わった」という表現が気になったのだと思う。「終わった」ではなく「経験した子ども」にすればよいのではと思う。経験した子どもたちが続いて本に親しむ準備をし、次につなげていくという機会を増やしていけば多分問題はないのだろう。できるだけいろいろな年齢層での読み聞かせの会を計画するのも一つの方法と思う。ティーンズコーナーについては平成14年12月に開設したと聞いたが、この図書館協議会の提案を受けてだったと思う。その時は、中学生、高校生を図書館に来てもらうためだったが、それ以上に、学校で出された宿題を友達同士で集まって相談でき、資料と一緒に調べる場が欲しいという意見からのスタートだったと思う。中央図書館1階の児童書の横の場所だったら、中学生、高校生が宿題を持ち寄って話しあってもよいだろうという考えから作られた。本だけのことではなく、そのコーナーは何をしたらよいのだろう。どのような場として提供するのかをもう一度考えてもらいたい。

事務局：建設中の仲町図書館は、学校図書館連携推進館ということで進めているので、ティーンズコーナー、調べ学習については調べものをするための机の配置、パソコンの導入等を検討している。詳細が決まったら報告する。

会 長：せっかくあるティーンズコーナーをどう活用していったらよいか、設置したのだから、作った意図があるはずだから研究してもらいたい。

委 員：ティーンズコーナーの目的として居場所を作ってあげることも大きな柱と思うが、もう一つは、一番利用率の少ない世代の利用率を上げたいということがある。コーナーの有無に関わらず利用率を上げる努力は必要と思うが、アンケート結果のように自分の居場所を作っている子どもたちに、ティーンズコーナーの利用を利用してもらうということではないので、利用率と居場所は連動して動くことはない。ティーンズコーナーというテーマでもこの2つに別けてとらえてよいと思う。

事務局：事業計画の中で明記しているが、講演会の開催については、これまでは固定的な事業を組んでいたが、今年度からは様々な分野の展示や講演会等を利用層拡大のために取り組んでいきたいと考えている。

委 員：学校図書館協力員が働きやすいような環境整備をしてもらいたい。何校かを見学したが学校によって違うが、職員室のニュースも入ってこないところもある。学校図書館協力員が働きやすいようなものをこの事業計画の中に反映できないかと思う。

会 長：事業計画のことだと思うが、今は、アンケートの件で話しているので、他にアンケートの件で意見のある人はいないか。

委 員：読み聞かせの件で、子どもは読んでもらうことが非常に好きだと思う。2週間前にふるさと村で紙芝居を行うグループがあり見に行った。子どもたちがのめり込んで聞いている。それが次の読書にも関わってくるとともに、本を読むきっかけにもなると思う。基本的には子どもたちはお話が好きで読んでもらうことが好きだ。そういうものを有機的に活用しながら図書館活動の中にも組み込んでいく。図書館には紙芝居は入れていないのか。あるのであれば、紙芝居を演ずることもあるか。

- 事務局：紙芝居及び紙芝居の台は貸出している。また、大型かみしばいというものがあるのでおたのしみ会等で利用している。
- 委員：紙芝居の他にも大型絵本があるが、他市では書架に置いている。小平市では、痛むのを恐れてしまっている。大型絵本の存在を知らない人がたくさんいると思うので、書架に出してもよいと思う。
- 会長：今後、その点についても検討してもらいたい。
- 委員：本好きな子どもたちをどう育てていくかが今回のテーマと思うが、図書館だけでなく、図書館、学校の図書室、家庭とがそれぞれ役割がある。このアンケート結果も未就学児はどうかとか、学校ではどうかとか、図書館ではどうかとか、最後に第三者から見たところではどうかとか、その辺がしっかりまとめられないと結局一部の機関だけが先行してしまうのではと感じた。過去の学校の取組で本好きの子どもを育てたという実績もあり、小平市もコミュニティースクールを推進するのでその辺を活用できないかと思った。
- 事務局：現行の第2次子ども読書活動推進計画も図書館ということだけではなく、推進のための取組として家庭、学校、図書館、地域における読書活動の推進といった中で子ども読書を推進するという作りである。この様な形で踏襲するかどうかを含めて第3次計画についても検討いただければと思う。
- 会長：図書館の目でしか見えない課題だが、図書館の目で見る場合でも学校、家庭、地域というものを含んでまとめにってもらいたい。
- 委員：イベントをしても中学生は行かないということが想像ができる。部活と、イベントどちらかといえば、みんな部活を選ぶ。学校は読書好きにさせるにはどうすればよいのかということで、小平市全体で読書活動の推進を実施しており、それを受けて各学校で展開している。読書力を付けるのは若い時だと聞いているので、本校は今年度も朝読書を行っている。
- 会長：中学校と図書館がタイアップして読み聞かせの出前を実施することは可能か。
- 委員：中学校としては朝の10分間ではあるが、実施することは問題ない。
- 会長：ティーンズコーナーの充実だけでなく、そのような取り組みも考えてもらいたい。それが地域とのつながり、学校とのつながりになる。対策の一つとしては考える余地があると思う。先ほどの学校図書館協力員について、事務局より回答をお願いします。
- 事務局：補助的な部分として、学校図書館協力員の全校配置が終わったので、これからは学校とどう連携していくか課題として考えていきたい。
- 会長：学校司書教諭の配置は全校終わったのか。
- 委員：教員の中で司書教諭免許を持っている教諭を、校長が任命し、小平市は全校に司書教諭がいる。しかし専任ではない。
- 会長：司書教諭と学校図書館協力員の関係をきちんとして協力体制をとり、今後関連する会議などで指導していけばよいと思う。
- 委員：収集方針の資料、事業計画の中に地域資料の収集等が載っているが、もう少し具体的に書いてもらいたい。今まで市史編さん室がたくさん集めた。公文書等の管理に関する法律ができて、本来はアーカイブを作らなければいけないが、すぐには小平市のアーカイブ古文

書館ができないので、その役を図書館が担わなければならない。その資料は図書館が本と同じような趣旨で集めて保管公開してほしい。はっきり明文化して次の50年の市史を目指し、市史編さん作業のために収集するというを謳った方が良いと思う。

事務局：全庁的な公文書管理ということで検討している。今後調整する中で役割りがはっきりすれば、明文化していきたい。

委員：小平市の図書館はある程度充実していると思うが、利用者の満足度が分からない。満足度を調査し、運営に活かしていければより充実していくと思うがどうか。

事務局：最近では平成20年度に利用者アンケートを取っている。また、教育振興基本計画策定時や市の世論調査の中で図書館についてのアンケートを取っている。これからも機会を見ながら考えていきたい。

会長：満足度調査についても検討いただければと思う。